

日本的“特区”期待中国企业

小原雅博 / 文

我来到上海工作已经一年3个多月。在此期间,我始终致力于促进日中两国之间的交流,努力加强和中国各界的对话。

今年11月在北京召开的亚太经合组织(APEC)会议期间,安倍晋三首相和习近平主席举行了会谈。我认为,日中两国作为不可能搬家的邻居,一衣带水,“和则两利,斗则俱伤”。

经贸合作

上海及周边地区已经形成了日本之外最大规模的日本人社区,我们在经济、文化等多个领域与中国广泛交流。

我馆涉及区域内的日资企业超过2万家,对这些日企的支援是我馆最重要的任务之一。今年,我馆联手多家日本经贸机构,将日企的各种声音汇总后反映给了上海市政府,并于12月19日提交了关于上海自贸区的相关建议。我们期待汇集了日企坦诚意见的这份建议书,今后能反映在上海市政府的各项政策上,

能扩大日企在中国的商务活动,促进两国经济关系。

目前在日本国内,为摆脱20多年的通货紧缩,实现经济增长,正在实施“安倍经济学”。今年6月“日本再兴战略”进行了修改,确立了调降法人税、推动机器人革命、促进女性就业、活用海外人才等十大改革支柱。

此外,以实现先进医疗服务的关西“国际战略特区”及福冈市“环球创业·创造雇佣特区”为代表的“国家战略特区”的创办准备工作也在进行着。我们欢迎中国企业家对日本投资,请大家把“安倍经济学”推进的市场开放作为新的商机。

文化交流

今年6月,在上海隆重举办了“日本电影周”,成功促成了中国朋友对日本文化、社会的理解。说到电影,日本著名演员高仓健的逝世引发了日中两国国民共同的深切缅怀。我期盼今后有第二、第三个日本演员能促进两国国民的感情融合。

去上海的书店逛逛,会发现不少村上春树、东野圭吾等的书籍,他们的作品深受中国读者喜爱,令我非常高兴。我也曾通过阅读鲁迅等作家的作品加深对中国的了解。今年上映的张艺谋导演的作品《归来》也让我深受感动。

我个人也已经向中国老师学习二胡半年多了。类似这样通过文化交流加深相互理解非常重要。

人员往来

在我国所有驻外使领馆中,我馆的签证签发量常年稳居第一。特别是2012年,年签发量多达43.5万件,创下了历史纪录。而今年,仅上半年的签证签发量就刷新了2012年一整年,预计全年签证总数将达到2012年的两倍。另外在11月,公布了中国商务访日人士、文化教育人士、个人游游客多次访日签证的简化条件。去过日本的朋友都跟我说,对日本印象特别好,还想再去。

2020年奥运会已定于东京举办,相信将来日本会成为更便于外国游客观光的国家。希望明年及未来,有更多的中国朋友去日本。

不过与之相反的是,最近十几年来中国的日本人却呈下降趋势。游客自不必说,更令人担忧的是日本年轻人开始跟中国产生了距离感,



这不利于日中间构筑长期稳定的友好关系。

俗话说得好,“百闻不如一见”。关于亲身体验的重要性,我有一个故事想跟大家分享。今年3月,我在官邸招待了60名任期结束、即将回国的日本老师。那天,他们几乎每个人都异口同声地说:“来中国之前很不安,也遭到过家属反对,但来了以后,发现周围的人都非常友善,工作生活很顺利。”

反之亦然。我有个中国朋友的孩子,小时候对日本很反感,后来偶尔有一次跟随学校去了日本研学旅行,发现与想象中的不一样,因此触发了进一步了解日本的愿望。再后来去日本留学,进一步近距离接触日本后,慢慢喜欢上了日本,还会对周围的朋友说起日本的好处。

现在,有36个日本地方政府在上海开设了事务所或派驻了工作人员,每周有350趟直飞航班穿梭于上海和日本之间。我期待,上海及其周边地区能先于中国其他省市,加强日中国民往来,促进相互了解,改善两国国民感情。

今后,我会继续尽自己最大的努力,与期盼日中友好的各界人士齐心协力,推进经济、文化、青少年、地方、教育、学术、观光等各领域的交流。在此也请各位读者给予我们支持。

(作者为日本驻上海总领事)

私が上海に着任して1年3ヶ月余りが経った。この間、私は日中間における交流の促進と、中国の各界の方々との対話を強化することに努力してきた。上海及びその周辺地域には2万社を超える日系企業が進出し、世界最大規模の日本人コミュニティが形成され、経済、文化、観光など幅広い分野で盛んな交流が行われている。11月に北京で開催されたAPEC首脳会議の際に、安倍総理と習近平国家主席の会談が実現し、両首脳は、戦略的互惠関係の原則にしたがって日中関係を改善、発展させていくことで一致した。日中両国は引越すことのできない隣国として、一衣帯水、「和すれば共に利し、戦えば共に傷つく」関係にあると私は考えている。

先ず経済交流については紹介したい。当館の管轄地域における日系企業数は2万社以上に達している。これら日系企業への支援は当館の最も重要な任務の一つであり、本年も、当館では、上海日本商工クラブやJETRO上海事務所と連携して日本企業の声をとりまとめ、上海市政府に伝えてきた。9月29日には、「日本からの食品輸入規制の緩和に関する要望」、12月4日には「危険化学品登記規制の運用改善に関する要望」を関係当局に提出させていただいた。そして、「中国（上海）自由貿易試験区」建設の成功に貢献するため、12月19日には「中国（上海）自由貿易試験区」に関する要望書を提出した。日本企業の率直な意見を求めて作成されたこれら要望書が政府の各種施策に反映されることで、日本企業の対中ビジネスが拡大し、日中両国の経済関係がますます発展することを期待している。

現在、日本国内では、20年以上に及ぶデフレから脱却して新たな成長を実現するために、アベノミクスが進展している。2013年6月に策定された「日本再興戦略」に基づいて本年4月より法人実効税率が2.4%引き下げられた。これによって、民間企業が相次いで国内工場を更新・増強し、設備投資も回復している。本年6月に改訂された「日本再興戦略」では、10の改革として、2015年から引き下げて数年で20%台までにする「法人税改革」、また、「イノベーション推進・ロボット革命」や「女性の活躍推進」、「外国人材の活用」、「健康産業の活性化・ヘルスケアサービスの提供」、「産業の新陳代謝とベンチャーの加速」などが改革の柱として挙げられた。目指すところは成長の果実を全国津々浦々に波及させ、地域活性化と中堅・中小企業・小規模事業者の革新である。

そして、大胆な規制緩和の突破口として先進医療の提供を可能とする関西の「国際戦略特区」や福岡市の「グローバル創業・雇用創出特区」を代表とする「国家戦略特区」創設の準備も進められている。

中国の企業家の対日投資を歓迎するので、皆様もアベノミクスによって進む市場開放を新たなビジネスチャンスにしていきたいと思いますと思う。

次に文化交流について述べたい。

当館は和服や茶道などの伝統文化からアニメや最新のカワイイファッションまで多岐にわたる文化イベントを通じて日本文化を紹介し、多くの方々から大変な好評を博してきた。

今年6月には上海で「日本映画週間」が盛大に開催され、中国の方々の日本文化・日本社会に対する理解と関心を促進することができた。先月、著名な俳優高倉健さんがお亡くなりになった際には、日中両国の国民が共に偲び追悼しましたが、今後、第二、第三の高倉健が現れ、両国国民の架け橋になってくれることを願っている。

8月には、上海日本商工倶楽部をはじめ、多くの在留邦人の方々のご協力を得て「上海浴衣FESTIVAL」を開催し、私自身も浴衣を着てオープニングセレモニーに出席したが、中国の方々に日本の庶民文化に接して頂くことができたと思う。

来年6月からは、日本の32都市で上海歌舞団によるバレエ劇「トキ」の公演が行われる予定である。私も鑑賞したが、人類の調和・共存を訴えるテーマや若い出演者の芸術的な演技に感動した。この作品を鑑賞する多くの日本人が同じ気持ちになることと思う。

上海の書店に足を運ぶと村上春樹氏や東野圭吾氏などの書籍が多数並べられ、これらの作品が中国の方々にも愛されていることを嬉しく思うが、私自身も、昔から魯迅氏などの文学作品などを読んで中国に対する理解を深めてきた。また、本年上映された張芸謀監督の映画作品「帰来」には大いに感動させられた。このほか、私はこの半年余り、中国の著名な二胡奏者汝芸さんご指導の下で二胡を学んでおり、先日、中国の方々を招待したレセプションで演奏した。このような文化を通じた交流は相

互理解を深めるため非常に重要であり、私自身も様々な方法により中国への理解を深める努力をしている。

最後に、観光など人と人との交流について述べたい。

当館は、長年、海外にある我が国の全在外公館において最多の査証発給件数を誇っている。特に2012年の1年間の査証発給件数は43万5千件で、史上最高の記録となった。今年は僅か半年でこの記録も破られ、年間の査証発給件数は2012年の2倍となる見込みである。また、11月には中国の商用目的の訪問者、文化人・知識人、個人観光客に対する数次ビザの発給要件の緩和が発表された。日本を訪れた方々は、皆、日本に対する印象はとても良く、また行きたいと行ってくれている。2020年の東京オリンピック開催も決定しており、今後、日本は外国の方々にとり、より観光しやすい国へと成長していくであろう。来年以降も、より多くの中国の方々に日本を訪れて頂きたい。

しかしながら、近年、中国を訪れる日本人の数は減少している。観光客の数は言うまでもなく、より心配なのは、日本の若い世代までもが中国と距離を置いてしまっていることであり、それは両国の長期的な友好にとり望ましいことではない。

「百聞は一見に如かず」と言うが、自ら体験することの大切さについて、エピソードを紹介したいと思う。

昨年3月、任期を終えて帰国する日本人学校の先生方60名を公邸に招いて送別会を開催した。その際、ほぼ全員の先生方が異口同音に「中国に来る前はとても不安で家族も反対したが、実際に来てみると周りの中国人は大変親しく接してくださり、仕事も生活も順調であった」と述べられていた。中国での滞在は先生方に素晴らしい人生の記憶を残したのだと思う。

逆もまた然りである。私の中国人の友人のお子さんは、幼い頃日本人に反感を抱いていた。しかし、たまたま日本へ修学旅行へ行った際、想像していた日本と実際の日本が違うことを知った。その後、より日本を理解したいとの思いから日本へ留学し、実際の体験を通じて日本を好きになった。今では周りの友人に日本の良さを話しているそうである。

現在、上海には36の日本の地方自治体が事務所又はスタッフを置いており、また、上海と日本間の航空直行便は毎週350便に達している。上海及び周辺地域が中国をリードし、両国間の人の往来を強化し、相互理解を促進し、国民感情を改善してくれることを期待している。

今後も、日中友好を願う多くの方々と力を合わせ、経済、文化、青少年、地方、教育、学術、観光等、様々な分野の交流を推進すべく、引き続き力を尽くしていくので、読者の皆様にも是非ご協力をお願いしたい。